

紀要の編集と論文審査に関する規程

制定 平成26年10月08日

第1条（目的）

本規程は、国士舘大学防災・救急救助総合研究所規程第3条第11号に基づき、国士舘大学防災・救急救助総合研究所（以下、「防災総研」という。）が刊行する『国士舘 防災・救急救助総合研究』（以下、「紀要」という。）の編集及び論文審査を適正かつ効率的に行い、もって本学における教育研究活動の一層の進展及び学外における防災・救急救助総合研究の発展に資することを目的とする。

第2条（委員会の設置と構成等）

所員会の下部機構として、紀要編集・論文審査委員会（以下、「委員会」という。）を置く。

2. 委員会は、所員会において、所員のなかから指名された若干名の委員からなり、その委員長は委員の互選による。
3. 委員の任期は、1年を超えないものとするが、再任を妨げない。

第3条（紀要の編集と審査）

委員会は、紀要の編集と審査を行う。

2. 委員会は、第4条に定める紀要掲載候補原稿につき、その紀要掲載論文審査基準に基づいて審査し、紀要への掲載の適否に関する提案を所員会に行う。
3. 所員会は、委員会の報告に基づき、会議を開いて必要な審査を行い、紀要への掲載の適否について最終決定し、委員会に指示する。
4. 委員会は、採否の決定を、遅滞なく本人に通知する。

第4条（紀要掲載論文審査基準等）

所員は、研究内容を「論文」として取り纏め（以下、「紀要掲載候補原稿」という。）、紀要への掲載を申請することができる。

2. 委員会は、必要に応じて、コール・フォー・ペーパー（CFP）方式で、所員外の者に対して紀要掲載論文を公募することができる。CFP方式の運用については、別途定められた「CFP方式での論文募集に関する内規」に従うものとする。
3. 委員会は紀要掲載候補原稿について、以下に掲げる紀要掲載論文審査基準を総合的に考慮のうえ、所員会への提案の可否を決定する。

- ①防災・救急救助に関わるテーマであること。
 - ②学術専門誌である紀要に掲載する論文として適切なものであること。
 - ③防災総研の教育研究水準の維持・向上に資するものであること。
 - ④論文としての形式（紀要論文執筆要領をいう。）と内容（独創性、証明・論理性、実践性をいう。）を具備していること。
 - ⑤特定の掲載候補論文に関し、委員会が必要と認め、防災総研外の専門家をレフェリーとして指名し審査させたときは、その査読にもとづく助言を受け入れること。
 - ⑥著作権、プライバシー又は営業秘密を侵害せず、かつ倫理法令等に違反するものでないこと。
 - ⑦論文等執筆者は、必要な場合には利益相反の開示を行うこと。
 - ⑧その他、所員会が定めた場合には当該年度の特別の条件を具備していること。
4. 前項の6号に定める倫理違反が無いことの行為、及び7号に定める利益相反の開示の行為については、「人を対象とした国士舘大学倫理委員会規程」及び「国士舘大学利益相反管理規程」に基づくものとする。
 5. 委員会は、投稿依頼者の数、紀要の許容総頁数及び許容費用などを総合的に考慮して決定した紀要の総頁枠の範囲におさまるよう、紀要の掲載論文等の数及び頁数を調整する。
 6. 委員会は、政策的又は実践的に意義のある主張や提言などがなされているものを、紀要の「論説」欄に掲載することにつき、所員会に諮ることができる。
 7. 委員会は、学術的論文としては未完成の研究覚書、調査研究継続中の考察、資料的価値の高いものなどを紀要の「研究ノート」欄に掲載することにつき、所員会に諮ることができる。
 8. 委員会は、防災総研が企画したシンポジウム等について、その記録を掲載することにつき、所員会に諮ることができる。
 9. 委員会は、その他必要と認めるものを掲載することにつき、所員会に諮ることができる。

第5条（委員会の論文審査手続き）

委員会の審査は、以下に掲げる手続きによる。

委員会は、審査担当者若干名（数名を委員とし、うち1名を主査とする）を指名し、論文の審査を委嘱する。

2. 審査担当者は、紀要への掲載の適否について審査し、紀要掲載の不適当なものについては、その理由を明示の上、主査が代表して委員会に報告する。
3. 委員会は、審査結果報告に基づき、紀要への掲載の適否に関する提案を決定し、これを所員会に行う。

第6条（事務局）

本規程の運営に関する事務は、防災総研事務室が行う。

第7条（改正）

本規程の改正は、委員会の議を経て、所員会が行う。

附 則

この規程は、平成26年10月8日から施行する。

CFP（Call for Paper）方式での論文募集について

制定 平成26年10月8日

国士舘大学防災・救急救助総合研究所
紀要編集・論文審査委員会

国士舘大学防災・救急救助総合研究所は、防災・救急救助に関連する災害医療・救助の連携、教育、地域貢献及び機器開発などに関する総合的研究を行い、もって本学における教育研究活動の一層の進展及び学外における防災・救急救助総合研究の発展に資することを目的としています。

『国士舘 防災・救急救助総合研究』（以下、「紀要」という。）掲載に向けて、CFP方式での論文につき、以下に掲げる内容で募集いたします。

投稿資格：防災又は救急救助の教育ないし研究を行っているもの（実務者を含む）。

採用件数：CFP方式で投稿された論文のうち、「紀要」に掲載するのは3本以内を目標とする。

審査手続き：紀要編集・論文審査委員会が、防災総研「紀要の編集と論文審査に関する規程」に則って審査のうえ、審査結果は後日、著者に通知する。

つきましては、以下に掲げる要領にて論文を募集いたしますので、ふるってご投稿くださいますようお願い申し上げます。

記

論文執筆要領：別紙「論文執筆要領」をご参照ください。

ただし、論文本体には所属・氏名など著者を特定できる情報は記さず、別途表紙を付けて、その表紙に「論文タイトル」並びに「所属」「氏名」「連絡先（住所、電話・FAX番号、及びメールアドレス）」を記入のうえ、出力原稿4部及びデータの両方をご提出ください。その際、使用ソフト名（ワードを原則とする）を明記してください。

宛先：〒206-8515 東京都多摩市永山7-3-1

国士舘大学防災・救急救助総合研究所

紀要編集・論文審査委員会

電話&FAX 042-339-7191

URL <http://www.kokushikan.ac.jp/>

以上

(3) キーワード

[キーワード]と記し、原則、5語以内とする。

(4) 要旨

[要旨]と記し、原則、500字以内とする。

要旨は、[目的]、[方法]、[結果]、[結論]の順で、具体的な数字、内容を簡潔にまとめる。

(5) 論文の書き方

- ① 本文は、はじめに、目的、方法、結果、考察、結論の順に記述する。
- ② 統計処理を行ったときは、統計学的検定法を明記する。
- ③ 外国人名等の欧文文字はその言語を用い、固有名詞やドイツ語名詞の頭文字は大文字とする。
- ④ 薬品名は、原則として日本語の一般名を用いる。商品名を用いる場合は、一般名の後の括弧内に記入する。
- ⑤ 繰り返される用語は略語を用いてよいが、初出の時は完全な用語を用い、以下に略語を使用することを明記する。

(例) 病院到着時心肺停止 (cardiopulmonary arrest on arrival、以下CPAOAと略す)

(6) 図、表

- ① 図、表の引用は、該当文章の末尾とする。
図と表は、原稿の最後にまとめて添付して下さい。
- ② 図、表は、それぞれ図1、図2、および、表1、表2のように通し番号をつけ、その後に図題あるいは表題を記載する。
- ③ 図番、図題は図の下に、表番、表題は表の上に記載する。

(7) 引用文献と注

① 引用文献

・本文のなかに、引用文献の番号を付し、かつ論文の最後に 引用文献 欄を設けて、**引用文献** と記し、引用番号順に配列して引用

.....X⁽¹⁾.....⁽²⁾。

引用文献

(1)

(2)

- ・著者は、3名までは明記し、これを超えるときは「他」または「et al」とする。
- ・雑誌名略記は、原則として、医学中央雑誌刊行会・医学中央雑誌収載誌目録略名表および Index Medicsに準ずる。
- ・文献が雑誌の場合は、その最初のページまたは要旨を含むページのコピーを同封する。そのコピーには、引用番号を付する。
- ・文献の記載の仕方

- ア. 雑誌 (引用番号) 著者名: 題名. 略誌名 発刊西暦年号; 巻: 頁-頁.
- (1) 匂坂量, 張替喜世一, 田久浩志, 他: 目撃のある病院外心停止に対するアドレナリン反復投与の脳機能予後における検討—ケースコントロール研究—. 国士舘防災・救急救助総合研究 2016; 2: 5-7.
 - (2) 武藤玲子: ミニアンを使用した小学生への心肺蘇生教育—講習会1ヵ月後、小学生は何人に教えたか?—. 蘇生 2012; 31(1): 10-14.
 - (3) Folke F, Gislason GH, Lippert FK, et al: Differences between out-of-hospital cardiac arrest in residential and public locations and implications for public-access defibrillation. *Circulation* 2010; 122: 623-630.
- イ. 単行本a (引用番号) 著者名: 書名. 発行所, 発行地, 発刊西暦年号, p頁-頁.
- (4) 財団法人日本公定書協会: 第十五改正日本薬局方. 株式会社じほう, 東京, 2006, 4.
- 単行本b (引用番号) 著者名: 分担執筆項目題名. 編者名. 書名. 発行所, 発行地, 発刊西暦年号, p頁-頁.
- (5) 川岸久太郎: 気管挿管に必要な解剖の知識. 田中秀治編. 気管挿管ハンドブック. 東京法令出版株式会社, 東京, 2004, 2-26.
 - (6) Falk JL, Rackow EC, Weil MH: Colloid and Crystalloid fluid resuscitation. In: Shoemaker WC, Ayres SA, Grenvik A, et al eds. *Textbook of Critical Care*. Saunders, Philadelphia, 1989, 1055-1073.
- ウ. ウェブサイト: URL名と、最終閲覧年月日
総務省消防庁: 平成28年版 救急救助の現況 I 救急編.
http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/kyukyukyujyo_genkvo/h28/01_kyukyuu.pdf.
(最終閲覧 2017/01/11)

②注

- ・注が必要な場合は、本文のなかに、肩上付に¹や²などを付し、そのページの下に脚注を設けて説明する。

なお、これ以外の方式にての執筆を当委員会は妨げるものではありません。別の方式を希望される場合は、別途、ご相談ください。

2. 原稿の採否

原稿は、紀要編集論文審査委員会が審査し、防災・救急救助総合研究所所員会で採否を決定し、これを寄稿者へ通知します。

以上